

マンダラ 平戒の大曼荼羅特別公開



湖東三山まん中のお寺
天台宗
金剛輪寺

近江西国第十五番札所・本尊生身の聖観世音菩薩
湖国十一面観音第十一番霊場・近江七福神霊場
神仏霊場滋賀三番・近江湖東二十七名利第十番

※諸般の事情により、公開期間は予告なく変更される場合があります。

金剛輪寺の文化財「仏像」

◆秘仏 本尊聖観世音菩薩

開山行基菩薩の御作といわれ、一刀三礼、行基菩薩が彫刀を進められると、やがて木肌から赤い血が一筋流れ、菩薩直ちにその彫刀を折り、粗彫りのまま本尊として安置されました。後の世に「生身の観音」と信心されております。

◆重要文化財 慈恵大師坐像

正応元年（一二八八）に蓮妙という仏師が父母の往生極楽を願い、六十六体造立したうちの一つであります。慈恵大師良源様（九一二〜九八五）は第十八代のお座主であり天台宗中興の祖と称される傑僧です。観音様の化身ともいわれるところから観音三十三身の数の、あるいは当山のお像のようにその倍数の大師像を造立してご利益を求めることがあったそうです。

◆重要文化財 大黒天半跏像

平安時代の作で、頭上に冠を戴き、甲を着けて忿怒の相をしておられます。古式の大黒天であり日本最古のもので、茶室水雲閣に接する護摩堂に安置しております。

◆秘仏 本尊聖観世音菩薩

天平期／県指定重要文化財
阿彌陀如来坐像二幅 鎌倉初期／重要文化財
不動明王立像 鎌倉初期／重要文化財
毘沙門天立像 鎌倉初期／重要文化財
四天王像四幅 鎌倉初期／重要文化財
慈恵大師坐像二幅 鎌倉初期／重要文化財
大黒天半跏像 弘仁期／重要文化財
十一面観世音立像 平安中期／重要文化財
銅鑿 鎌倉時代／重要文化財



阿彌陀如来坐像



十一面観世音立像

曼荼羅って……？

曼荼羅（マンダラ）とは、古代インドの言葉で「聖なる空間」を意味し、わかりやすく言うと、「仏さまの集会図（しゅうえず）」である。曼荼羅には様々な種類があるが、その代表的なものとして、胎蔵界・金剛界の両界曼荼羅があり、仏さまの姿を通じて、宇宙の姿と法則をあらわなく表現している。この度復元された金剛界八十一尊曼荼羅は、特に天台密教において重要視され、国内に現存するものは数少なく、中世密教寺院の儀礼、儀式をたどるうえでも、たいへん貴重なものである。

Mandala



交通アクセス

JRの場合

「稲枝」駅より金剛輪寺行 年中平日運行 運行時間のお問い合わせ TEL 0749-37-3211

マイカーの場合

京阪神方面からは名神「八日市インター」を出て信号直進、東近江大橋を越え、「池之尻交差点」を左折、国道307号線を彦根方面へ12分。

中京方面からは名神「彦根インター」を出てすぐ信号左折、国道307号線を直進20分。

観光タクシー

米原・彦根両駅に年中あります。 TEL 0749-22-1110

大型バスは本堂の下まで乗り入れ可能です。 ※詳しくはお問い合わせ下さい。

湖東三山まん中のお寺

天台宗 金剛輪寺

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺873番地

TEL (0749) 37-3211 FAX (0749) 37-2644

URL <http://www.kongourinji.org/>